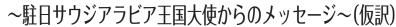
中東情勢分析

日本企業に求めるもの







本邦駐箚サウジアラビア王国大使 H.E. Dr. Ghazi Faisal Binzagr 在日サウジアラビア王国大使館 投資アタッシェ Mohammed A. AlDahlawi

日本とサウジアラビアのパートナーシップの歴史

サウジアラビア王国と日本は、長年にわたってパートナーシップを築いてきました。まさに来たる2025年、両国は外交関係樹立70周年の記念すべき節目を迎えます。私たちはこの間、互いの飛躍的成長の重要な一翼を担う、経済的な協力関係を発展させてきました。

日本は王国の主要な貿易相手国として、その存在感を放ってきました。事実2023年には、日本は我が国にとり世界第2位の輸出市場であり、また第6位の輸入元となり、2国間貿易額は400億米ドルを超えました。 我が国の原油輸出は日本の産業発展を支える一助となり、一方王国は、日本車と高品質な機械製品の輸入による恩恵を受けてきました。

日本・サウジ・ビジョン2030: さらなる野望

しかし、私たちの野望は今、さらなる高みを目指しています。2016年に始まった「日・サウジ・ビジョン2030」は、この重要な二国間の貿易関係を基盤に、より広範囲の産業分野にまたがるより深い戦略的パートナーシップを、両国の経済戦略の中心に築くことを目指すものです。

この戦略的なパートナーシップは、気候変動、地政学的緊張の高まり、AIのような先進テクノロジーにより深まる混迷といった数多くの要因によって、グローバル経済が変革を起こす時代にあって、格段に重要なものとなっています。

サウジアラビアは長年、原油依存から脱却し多角化を図るため、こうした外的要因と自らが必要とするものを見定め、それらを長期的国家開発戦略とともに、サウジアラビアの「ビジョン2030」に盛り込んできました。「ビジョン2030」の中核には、経済改革と大規模な投資プロジェクトという2つの重要な側面があります。

投資環境の改革

私たちは、外国人投資家がサウジアラビアに進出し成長するのをより容易にするため、広範囲にわたる改革を実行してきました。これら投資家がもたらし得る資本、経験、専門知識は、私たちの経済目標の達成に欠かすことのできないものであることを認識しており、そのためにも十分な待遇をもって迎える準備を整えています。

近年では、私たちは民事取引法、民営化 (PSP) 法、会社法、破産法および経済特区、そして8月に発表された改正投資法など、多くの投資促進政策を導入しました。とりわけ重要なのは、こうした取り組みが、投資環境を改善しているだけでなく、数多くの市場の動向とまったく対照的であることです。国連貿易開発会議が発行した「2024年版世界投資報告」によると、過去6年間の年度別の経済先進国が導入した新たな投資促進政策全体うち、我が国のこうした投資促進政策のようなものは半数未満にとどまっています。

しかし、これらの改革は単独で行われているわけではありません。我が国の経済変革の推進に資する大型投資プロジェクトとともに実施されています。外国人投資家はこのようなプロジェクトに中心的な役割を果たすこととなりますが、サウジアラビアと日本両国間の重要かつ成長を続けるパートナーシップを考慮すると、日本の投資家のみなさまはここに参画するにまさに理想的であると考えています。

サウジアラビアにおける 主要プロジェクトの具体例

これらの投資プロジェクトは、エンターテイメントから鉱業、ヘルスケアからテクノロジーまで、多岐にわたる分野に広がっています。実際にこうした 投資機会がどのようなものかを感覚としてつかん ガーズィー・ファイサル・サイード・ビンザグル閣下の略歴

筆者紹介

1964年1月、サウジアラビアのジェッダ生まれ。カリフォルニア大学サンタバーバラ校で物理学の学士号を取得後、アリゾナ州立大学サンダーバードグローバル経営大学院で国際経営学修士号、ニューメキシコ州立大学で博士号を取得。

2006年から2024年1月まで、ウィサール・デベロップメント・センターの会長を務め、ビンザグル・グループでも重要な役職を歴任。2013年から2024年1月まで、サウジアラビア諮問評議会の議員を務める。

2024年2月、駐日サウジアラビア次期大使に任命。同年5月から駐日サウジアラビア特命全権大使として活動中。

ムハンマド・アルダラウィ氏の略歴

筆者紹介

東京大学公共政策大学院卒(公共政策学修士)。専門は経済 学、法学・政治学。堪能な日本語を駆使し、2013年より一般 財団法人中東協力センターのコンサルタントとして、リヤドお よびダンマンにて市場調査、ビジネスマッチング活動、大規 模イベントのコーディネーションなど多岐にわたる活動を通 じ、サウジアラビアに投資機会を求める日系企業の誘致に尽 力。退職後、2017年より在リヤドサウジアラビア経済企画省 の専門職コンサルタントとして勤務。日サ経済協力戦略の発 展に寄与した。「日・サウジ・ビジョン2030」の経済協力分野 での共同事業で管理部門活動をリードし、サウジアラビア国 王の訪日、岸田総理のサウジアラビア訪問でも中心的な役割 を果たす。現在、サウジアラビア投資省東京事務所代表とし て、日系企業によるサウジアラビアへの投資を促進するため、 大規模イベントの企画と実行、企業訪問など精力的に活動を 行っている。近年、産業サプライチェーンにおける協業、バ イオテクノロジー・半導体・デジタライゼーションなど新しい 分野におけるハイレベルでのパートナーシップ構築にも貢献 している。日サビジョン・リアライゼーション東京事務所の代 表も務める。

でいただくため、3つのセクターに関しもう少し詳細にその概要をご説明します。

観光産業

例として、我が国でもっとも勢いのある新たなセクターの1つである観光産業では、非常に革新的なエコツーリズムの目的地である「紅海プロジェクト」や、サウジアラビア初のユネスコ世界遺産を擁する「アル・ウラー」といった大規模な取り組みが進行中です。観光分野の需要は、当初目標の年間集客数1億人を既に突破したように、急速に成長し続けています。私たちは外国人投資家にはこの観光産業全体で高まるニーズに応えるため、支援していただきたいと考えております。

再生可能エネルギー

同様に、再生可能エネルギーもまた、我が国の大規模プロジェクト開発の中心にあります。サウジアラビアは長い間、世界のエネルギー供給の中心であり、日本にとっても信頼に足る重要な供給国となっています。しかし、我が国はこれから先もその役割を果たし続けようとする一方で、低排出経済への移行の重要性も認識しており、2030年までに国内エネルギー需要の半分を再生可能エネルギーから獲得するという野心的な目標を掲げています。

私たちはまた、世界最大のグリーン水素施設を現在開発している「NEOM」のような大規模プロジェクトの中心にも、再生可能エネルギーを位置付けています。サウジアラビアと日本は、ブルーアンモニアをサウジアラビアから日本へ世界に先駆けて輸出するなど、既にこの分野で協業を進めており、日本の投資家のみなさまには引き続き、この産業分野の発展に中心的な役割を担っていただけると確信しております。

自動車産業と電気自動車

最後に、自動車産業と電気自動車(EV)について申しますと、サウジアラビアの消費者は自動車産業分野での日本の技術力を非常によく理解しており、日本車が王国市場をけん引していることは当然と言えます。しかしながら、この自動車産業が変化する中で、サウジアラビアは EV 生産国として台頭しており、ジェッダ近郊のキング・アブドラ・エコノミック・シティ周辺を拠点とする EV のサプライチェーンを構築中です。

自動車産業における日本の専門的知見と経験を考えると、日本の投資家のみなさまが EV 供給拠点としてサウジアラビアが発展していくにあたり、単独で、あるいは、韓国の現代自動車やピレリのようなグローバル企業と国内製造施設に関し共同出資の実績のある政府系ファンド PIF といったサウジアラビアの国内投資家と協力して、その役割を担っていただく余地は十二分にあると確信しております。

今後の展望:さらなる成長に向けて

これら3つのセクターは、サウジアラビアのプロジェクトが日本の投資家のみなさまに対して創出している投資機会の範囲と規模を示す好例ですが、決して網羅的ではありません。これから先、我が国の繁栄の原動力となる要因に目を向けると、その中心となるのは多様化です。そして、この多様化の促進を支援するグローバル・パートナーに目を向けると、何十年にもわたり、我が国が注力してきた産業分野に専門的知見と経験をもたらしてきた日本の投資家のみなさまこそが、理想的なパートナーなのです。

では、サウジアラビアはこれからどう進むべきでしょうか。私たちは、サウジアラビアと日本のパートナーシップの成長可能性を強調したいと思います。このパートナーシップは、単に両国の経済にとどまらず、アフリカをはじめとする世界の市場にサプライチェーンおよびバリューチェーンをともに構築することにも関わります。その可能性は無限大です。

より多くの投資家のみなさまを我が国にお迎えし、両国のパートナーシップが深まることを心待ちにして おります。 本邦駐箚サウジアラビア王国大使 ガーズィー・ファイサル・サイード・ビンザグル

在日サウジアラビア王国大使館 投資アタッシェムハンマド・アルダラウィ

#

What to Expect from Japanese Companies: Message from the Ambassador of the Kingdom of Saudi Arabia in Tokyo

The partnership between Japan and Saudi Arabia stretches back many years. Indeed, next year we will celebrate 70 years since the establishment of diplomatic relations between our countries. Over that period, we developed an economic partnership that has been an important part of the rapid growth that both our nations have seen over this period.

Japan has emerged as a key trading partner for the Kingdom. Indeed, last year it was our second largest export market and our sixth largest source of imports, with bilateral trade worth more than \$40bn. Saudi oil exports have helped to fuel Japan's industrial development, while the Kingdom has benefitted from being able to import Japanese cars and high-end machinery.

However, our ambitions now go even further. The Saudi-Japan Vision 2030, launched in 2016, aims to build on this important bilateral trade relationship to forge a deeper strategic partnership which encompasses a much broader range of sectors at the heart of each country's economic strategy.

This partnership is particularly important at a time when the global economy is being reshaped by a number of factors, including climate change, rising geopolitical tensions and the rising disruption from advanced technologies such as Al.

Saudi Arabia has long identified these factors and our own need to diversify away from a reliance on oil and incorporated this with our long-term national development strategy as set out in our Vision 2030.

Central to this Vision are two key aspects: economic reforms and major investment projects.

We have implemented a broad range of reforms which aim to make it easier for international investors to set up and grow in Saudi Arabia. We know that the capital, experience and expertise that these investors can bring will be vital in realising our economic objectives, so we are focused on rolling out the red carpet for them.

In recent years we have introduced a number of pro-investment measures, including the Civil Transactions Law, Private Sector Participation Law, Companies Law, Bankruptcy Law and Special Economic Zones, as well as the Updated Investment Law announced in August.

Importantly, these initiatives are not only reforming the investment environment, but also stand in stark contrast to the direction of motion in many markets. According to the World Investment Report 2024, published by UN Trade and Development, pro-investment measures have accounted for less than half of the new investment policies introduced by advanced economies in each of the last six years.

However, these reforms are not taking place in a vacuum. They are being accompanied by major investment projects which aim to accelerate the transformation of our economy. International investors are playing a key role in these projects and, given our important and growing partnership, we believe Japanese investors are ideally placed to participate.

These projects encompass a broad range of sectors, from entertainment to mining and from healthcare to technology. To give you a sense of what these opportunities look like in practice, we have outlined three areas in more detail below.

For example, when it comes to tourism, one of the leading new sectors in the Kingdom, we are developing major initiatives such as the Red Sea Project, a highly innovative eco-tourism destination, and AI Ula, home to Saudi Arabia's first UNESCO World Heritage site. Demand in the sector is growing rapidly as the Kingdom has already exceeded its initial target of attracting 100 million visitors a year and we are looking to international investors to help meet this growing need across the sector.

Likewise, renewable energy is central to the development of our major projects. Saudi Arabia has long been a key global energy hub and a reliable and important supplier of oil to Japan. However, while we will continue to play this role in the years to come, we also recognise the importance of transitioning to a low emission economy and have set out the ambitious aim of obtaining half of our domestic energy needs from renewables by 2030.

We have also placed renewable energy at the heart of major projects such as NEOM, which is currently developing the world's largest green hydrogen facility. Japan and Saudi Arabia have already worked together in innovative projects in this space, such as the world's first export of blue ammonia from Saudi Arabia to Japan, and we believe that Japanese investors can continue to have a central role to play in the development of this industry.

Finally, the automotive sector and electric vehicles. Saudi consumers are very familiar with Japan's expertise in the sector and it is no surprise that Japanese cars are the market leaders in the Kingdom. However, as the sector changes, Saudi Arabia is increasingly emerging as a producer of electric

vehicles and establishing a supply chain around them, much of which is based around the King Abdullah Economic City near Jeddah.

Given Japan's expertise and experience across the automotive sector, we believe there is strong potential for Japanese investors to play a role in the development of Saudi Arabia as a hub for electric vehicles, whether on their own or in partnership with Saudi investors, such as our sovereign wealth fund, PIF, which has already partnered with international companies such as Hyundai and Pirelli on manufacturing facilities in the Kingdom.

These three sectors provide strong examples of the scope and scale of the opportunities being created for Japanese investors by Saudi Arabia's projects, but they are far from exhaustive. When we look at the factors that will drive our prosperity in the years to come, diversification is central. And when we look to the international partners that can help us in accelerating that diversification, we see Japanese investors, with decades of expertise and experience in the areas on which we are focusing, as our ideal partners.

So where do we go from here? We want to conclude by emphasizing the full potential of the growing Saudi-Japan partnership. For this partnership is not just about the economies of the Kingdom and Japan, but is also about building together, supply chains and value chains into the markets of the world starting with Africa and going beyond. The sky is the limit.

We look forward to welcoming more investors to the Kingdom and to deepening the partnership between our respective nations.

Ghazi Faisal Binzagr Ambassador of the Kingdom of Saudi Arabia to Japan

Mohammed A. AlDahlawi Investment Attaché, Royal Embassy of Saudi Arabia

^{*}本稿の内容は執筆者の個人的見解であり、中東協力センターとしての見解でないことをお断りします。